

総合リハビリテーション. 2011; 39(11): 1091-1094.

## 振動刺激による疼痛および痙縮の緩和が ADL 改善に有効であった胎児性水俣病患者の 1 例

遠山さつき、臼杵扶佐子

維持期の神経疾患患者に振動刺激や促通反復療法（川平法）を継続して行った報告はない。当センターの外来リハビリテーションにて、足底痛が強く積極的なリハビリテーションを拒んでいた 50 代男性胎児性水俣病患者に対し、振動刺激および促通反復療法を実施し、1 年の経過で疼痛と痙縮の改善を経験した。疼痛および痙縮が軽減したことで ADL 訓練を含めた積極的なリハビリテーションの実施が可能となり、ADL 能力の向上につながった。